

エベネゼル緊急基金

EBENEZER
OPERATION EXODUS

預言の成就を 見る

「まことに、神である主は、そのはかりごとを、
ご自分のしもべ、預言者たちに示さないでは、
何事もなさらない。」アモス書3章7節

預言の成就を見る

国際



フィリップ・ホームバーグ
Philip Holmberg
国際理事

エベネゼル出エジプト作戦の働きは、1974年にスティーブ・ライトルに与えられた預言的な幻を通して生まれたものです。スティーブは彼自身の著書「第二の出エジプト」—私の民を行かせよ—の中で次のように書いています。「私にはたくさんの人が見えました。彼らがユダヤ人であるとわかりました。あるところから見ていると、何百、何千ものユダヤ人たちがいるのが見えました。その後見ている場面が変わりました。私は高いところから、彼らがいる国が見えました。それはソ連でした。その国のいろいろな場所から集められたユダヤ人たちだったのです。」

それと同じように、主は現代の最初のアリヤーの波が来る前に、アリヤーへの理解を与えておられました。1881年、ホラシオ&アンナ・スパフォードはアメリカ人の信者たちの一行をシカゴからエルサレムへと導きました。彼らはホーリネス運動の中におり、イギリスのケズウィック運動と同様に、ウィリアム・ブラックストーンやD.L.ムーディとも親しくしていました。

彼らの習慣や信念のすべてに同意はしていなかったとしても、私たちは、彼らが神様へまたみことばへの信仰を持っていたゆえに、また神様を喜ばせ神様に心から仕えたいという願いを持っていたゆえに、彼らを尊びます。アンナ・スパフォードはこう言いました。「私たちは、神様がユダヤ人たちを連れ戻される時に、エルサレムへ行きたいと思いました。私たちは預言の成就を見たかったのです。」

スパフォード夫妻と彼らの一行は、エルサレムに着いてからいくつものしるしを見たようです。その夏には珍しく雨が降り、次の春にはいつもよりも早くアーモンドの花が咲きました。そして、ユダヤ人たちが帰還したのです！

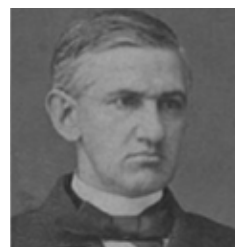
スパフォード夫妻は、自分達のことを「克服者」と呼んでいました。なぜなら、彼らがエルサレムへ旅をした一つの理由は、いくつもの人生における悲劇を克服したいという願いがあったからです。その8年前に、ホラシオとアンナはヨーロッパを訪れることを決めました。アンナと彼らの4人の娘たちは、ホラシオとは別にフランスの船に乗って旅に出かけました。しかし、その船は、衝突事故の後で沈没しました。アンナは救助されましたが、4人の娘たちはみな溺死したのです。この悲惨な経験を通して、ホラシオは有名な讃美歌である「安けさは川のごとく」(It Is Well with My Soul)を作詞したのです。

スパフォード夫妻は、1882年にイエメンから何百人かのユダヤ人が到着した時、エルサレムに住み始めました。このユダヤ人たちはとても貧しく、町の外にテントを張って住んでいました。そしてスパフォード夫妻と彼らの一行だけが彼らとともに立ち、心にかけてのです。

聖地にいる他のクリスチャンの団体とは違い、「克服者」たちはユダヤ人やイスラム教徒の回心には関心がなく、困窮している人なら誰でも助けました。

写真
右:アンナ&ホラシオ・スパフォード

エルサレムに来たイエメンからのユダヤ人たち



「まことに、神である主は、そのはかりごとを、ご自分のしもべ、預言者たちに示さないでは、何事もなさない。」アモス書3章7節

これがイエメンからのユダヤ人たちのアリヤーで、最初の現代のアリヤーでした。彼らは紅海とエジプトを歩いて渡り、船でハイファへ行き、そして歩いてエルサレムへやってきたのです。このアリヤーは、「aleh betamarアレ・ベタマル」と呼ばれ、雅歌7章8節7:8「なつめやしの木に登り、」の中にあるbetamarということばは「上る」という意味で、アリヤーすることを表しています。

ロシアでは、この同じ時期に、ユダヤ人たちは迫害され虐殺されていました。特に、1881年から1884年の間、1903年から1906年の間です。1880年から1920年の間に、200万人以上のユダヤ人がロシアからアメリカへ逃亡しました。しかし何千人かのユダヤ人はパレスチナに行くことを決めました。

1882年に、ビルイムのメンバーが聖地に到着しました。「ビル」という名前は、イザヤ書2章5節に基づく頭字語で、「来たれ。ヤコブの家よ。」のヘブライ語の頭文字を集めたものです。彼らは、マルクスと同様に聖書によっても影響を受けていました。彼らの多くは、学生で、実際のサバイバルスキル以上に、聖書に対して熱心でした。

もう一つのユダヤ人の団体(ホベベイ・シオンーシオンを愛する者)のメンバーたちもまたパレスチナにやってきました。そして、1882年にテル・アビブの近くに、リション・レシオンを創立しました。



ですから、1881年からは、エルサレムに住むことを決めた聖書を信じるクリスチャンの団体がいたのです。彼らは、預言的なみことばによって、ユダヤ人の帰還を見ることを期待していました。その翌年、オリムの三つの別々のグループが、南からと北から到着しました。このようにして、最初のアリヤーの波が起こり始めたのです。

1895年には、アメリカ人のグループに新しいメンバーが加わりました。その中には、シカゴからのスウェーデン移民も、またスウェーデンの村から直接やってきた人もいました。この団体は全部で150人でした。

スウェーデン人の作家セルマ・ラーゲルレーブは、1909年のノーベル文学賞を受賞しました。彼女は、20世紀の終わりに、一年ほど中東で過ごしました。その後スウェーデンに帰り、彼女は「エルサレム」という小説を書きました。自分の農場を売ってエルサレムへ行ったスウェーデンの農夫についての話です。

しかし、エルサレムにあるスウェーデン系アメリカ人の入植地から学ぶべき重要な教訓があります。ヤーコフ・アリエルとルツ・カークは、メシア主義、聖さ、カリスマ、そして共同体について強調しました。しかし、第二世代のほとんどは、創始者の信仰からは離れてしまいました。彼らにとっては、エルサレムは、メシアがダビデの王国を再建するために戻って来られる聖地ではありませんでした。他の考え方も徐々に入り込み、遂には神の啓示に対する信仰は失われてしまいました。というわけで、ユダヤ人がこの地に移住して定着することに対する献身は、アラブ人たちの間での慈善的な医療事業にとって代わりました。そして、彼らはアラブ人たちの必要と願いに共感したのです。

エベネゼルの第二世代が、パウロが霊的息子テモテに語った言葉に従うことができるようにしてくださいように!

「あなたは、キリスト・イエスにある信仰と愛をもって、私から聞いた健全なことばを手本に下さい。そして、あなたにゆだねられた良いものを、私たちのうちに宿る聖霊によって、守りなさい。」第2テモテ1章13節、14節

用語解説

アリヤー(Aliyah):
ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。
ユダヤ機関(Jewish Agency):
1929年 C.ワイズマンによって創設され、エルサレムに本部をもつユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム(Olim):
イスラエルに帰還するユダヤ人

写真
上:エルサレムの雨

左:イエメンからの最初のアリヤーのユダヤ人の家族



ヨーロッパからのアリヤーにインパクトを与える

ヨーロッパ



ヨハネス・バルテル
Johannes Barthel
地域コーディネーター

「あなたの見ているとおり、彼の信仰は彼の行いとともに働いたものであり、信仰は行いによって全うされ、」ヤコブ2章22節

1991年1月に、イスラエルで毎年行われる祈りの大会において、ヨーロッパから多くのとりなし手が参加する中、神様は、ただ集まって祈る以上のことを準備しておられることを明らかにされました。神様は、私たちに、ヨーロッパからユダヤ人が帰還するのを支援し始めるように召されたのです。

初期には、ロシア語圏からのアリヤーが非常に多かったため、私たちの働きはかなり旧ソ連での働きに向けられていたため、次の段階がヨーロッパからのアリヤーに関わることだとは理解していませんでした。

ヨーロッパのクリスチャンからの財政的支援は、旧ソ連からの多くのオリムがアリヤーするための支援に用いられてきました。財政的な献金とともに、多くのボランティアが、自分の時間と努力を費やして、オデッサベースや別の場所で奉仕しました。中央ヨーロッパからは、人道的支援のコンテナが極東に住む困窮したユダヤ人コミュニティに送られて、本当に祝福となりました。

旧ソ連での経済的、政治的状況が改善されてきたため、2000年以降はアリヤーは減少しました。そして多くの人々は、私たちの働きが縮小すると思っていた。しかし、それとは反対のことが起こったのです。

イギリスのエベネゼルは、ユダヤ機関と良い関係を築き、イギリスからのアリヤー便のための支援を、経済的だけではなく実際の面においても提供し始めました。そこで多くの奉仕者たちが関わりました。感動的な証もあり、他のヨーロッパの国々からもアリヤー支援への関心が高まってきました。そして、フランスでの同時多発テロ事件の後、ヨーロッパのユダヤ人の約三分の一が住んでいるフランスからのアリヤーの数が、ほぼ一夜のうちに、ウクライナやロシアのような国々を上回るようになったのです。

神様は、東ヨーロッパのオリムを支援する働きだけではなく、他のヨーロッパ諸国においてユダヤ人コミュニティをどのように支援したらよいかを理解する信者のネットワークを建て上げる働きを進めていくように導かれました。オランダのエベネゼルは、輸送コンテナの支援において開拓の働きをしました。

2017年4月には、エベネゼルは、ベルリンにおいてイスラエルプログラムセンターを開設しました。ユダヤ機関とエベネゼルが協力しているということから、ユダヤ人パートナーと友が、ヨーロッパからのアリヤーを今後の課題として見ていることがわかります。

西ヨーロッパからのアリヤーは異なったものですが、同様に重要なものなのです！

写真

左：イギリスからの初めてのアリヤー便

右：フランスからの大きなアリヤー便



ロシア全国祈りのマラソン

20年前に、神様はエベネゼルに、ユダヤ人とクリスチャンの対話の中心となるように召しを与えられました。ユダヤ人はそれを信頼し、クリスチャンはそれを教会の働きの一部として考えるようになりました。そして2020年からは、ユダヤ人とクリスチャンの対話の中心的なプロジェクトは、毎年行われるロシア全国祈りのマラソンとなっています。

毎年1月27日—国際ホロコースト記念日に、ロシア中の何百もの教会は特別な祈りの集会を持ちます。そこでクリスチャンたちはユダヤ人のために祈り、この対話のプロジェクトのための献金をするのです。これらの集会の配信は12時間続きます。4万人以上のクリスチャンがこのマラソンに参加します。そしてこれは、ロシアにおける福音的教会にとって鍵となるイベントとなっています。

このマラソンの期間に集められた献金は、第二次世界大戦中にユダヤ人の大虐殺が行われた場所に記念碑を建てるためや、元ゲッターや強制収容所の囚人だった人々の支援や、ユダヤ人家族のアリヤーのために用いられます。

ロシア



ボリス・ワシュコフ
Boris Vasyukov
ロシアコーディネーター

写真

上：ロシア、モスクワにあるピクトリー公園にあるホロコースト記念碑

左：「時のしるし」という1日だけの大会で紹介された祈りのマラソンのスクリーンキャプチャー



南アフリカからのアリヤーが増加

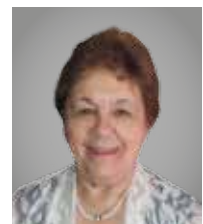
2020年12月までの1年の間に、南アフリカからのアリヤーは20%増加しています。これは驚くべきことです。この期間の飛行機の便は、4月と5月以外は、毎月ほぼ30人から50人ほどのオリムを運びました。

コロナ禍の封鎖措置の影響で、エベネゼルは2020年3月以来、教会を訪れて分かち合う機会はありませんでした。ユダヤ機関も定期的な説明会を開催することができませんでした。しかし彼らはオンラインでセミナーや質疑応答のための機会を持ち、同様の成功を収めています。ユダヤ人の中には、パンデミックでアリヤーは遅れましたが、何か月前に無事帰還した人達もいます。

すてきな話です。ユダヤ機関のアリヤー部門で働く女性ジバの娘が、イスラエルの男性とオンラインで知り合い、昨年6月末の飛行機の便に乗ってアリヤーし、そして11月に、コロナ禍のため20人以下のゲスト

を迎えて結婚式をあげました。花嫁の両親も、結婚式のためにイスラエルへ来ることができました。

南アフリカ



アリダ・シュルツ
Alida Schultz
南アフリカコーディネーター

写真

彼女はアリヤーして花嫁となりました。



地の果てより

アルゼンチン



ラウル・ルイル
Raul Ruille
エベネゼルアルゼンチン
代表

「恐れるな。わたしがあなたとともにいるからだ。わたしは東から、あなたの子孫を来させ、西から、あなたを集める。わたしは、北に向かって『引き渡せ』と言ひ、南に向かって『引き止めるな』と言ひ。わたしの子らを遠くから来させ、わたしの娘らを地の果てから来させよ。」イザヤ書43章5、6節

アルゼンチンのエベネゼルチームは、今年のチャレンジと新しい戦略を主に感謝しています。2019年に私たちが支援を始めた多くのオリムは、出発の前に私たちに電話をくれました。そして、パンデミックのためにブエノス・アイレス空港は閉鎖されているはずなのに、超自然的な方法で、彼らの便が出発できるようになったと告げてくれました。これは、イスラエルとアリヤーのために祈り続けたとりなし手たちの熱心な祈りがあったからだと思います。

エベネゼルは、ダニエルのアリヤーを経済的にも精神的にも全面的にサポートしました。なぜなら、多くの政府機関がコロナ禍で閉鎖されていたため、必

要な書類を準備するのが非常に難しかったからです。彼に初めて会ったのは、2018年末に彼がエベネゼル支部を訪れた時でした。彼は、一度もイスラエルへ行ったことがないと言っていました。何度もイスラエルの若者のためのプログラムに申請して先祖の地を訪れてみたいと試みましたが、それはかなわなかったのです。

大人になってからも、その夢は実現不可能に思われました。しかし、ある人からエベネゼルについて聞くことができました。そして遂に彼の夢はかないました。そしてテルアビブへの便に無事乗って帰還することができたのです。

日々のチャレンジの中で仕えるエベネゼルチームのためにどうかお祈りください。最大のチャレンジは、地方のユダヤ人コミュニティーを訪問することです。現在アルゼンチン中で、コロナ禍の影響で旅行が非常に制限されているからです。皆さんのお祈りは私たちにとって非常に大切なものです。



写真
上:アルゼンチンのパタゴニアの山々

右:アリヤーする前、ダニエルとラウル

イスラエル： 救いのための神の器

イエスはサマリアの女に言われました。「救いはユダヤ人から出る。」(ヨハネ4章22節)

子とされることも、栄光、契約、律法の授与も、礼拝、約束、家長制度などはイスラエルのものです。父祖たちも彼らのものです。キリストも、肉によれば彼らから出ました。」(ローマ書9章4、5節)彼らのことばはユダヤ人でない者たちに向けられたものですが、神の目的を知らない国々はイスラエルに対して敵意を示していたのです。

たとえば、ファラオは民に対して、「イスラエルの民はわれわれよりも多く、また強い。・・・彼らが多くなり、・・・この地から出て行くことがないように。」(出エジプト記1章9-10節)ハマンはクセルクセス王の王国にいるすべてのユダヤ人を滅ぼしたいと願っていました。(エステル3章6節)そして最近では、シリアが、国々のユダヤ人に対する敵意を示しました。

出エジプト5章2節では、このイスラエルの民に対する敵意は、彼らの神にさえ影響を与えています。ファラオは言いました。「主とは何者だ。私がおの声を聞いて、イスラエルを去らせなければならぬとは。私は主を知らない。イスラエルは去らせぬ。」(出エジプト記5章2節)アサフはこのような憎悪の中で、主に叫びました。「・・・沈黙しないでください。黙っていないでください。神よ。黙

り続けないでください。ご覧ください。あなたの敵が騒ぎ立ち、あなたを憎む子どもが頭をもたげています。」(詩篇83篇1、2節)

敵たちは言います。「ああ、彼らの国を消し去ってイスラエルの名がもはや覚えられないようにしよう。」(詩篇83篇4節)

世界はこのようにしてイスラエルと、彼らの神と主の油注がれた者を拒絶したのです。彼らは、イスラエルのかせを打ち砕き、彼らの鎖を解き捨てたいと願っているのです。(詩篇2章3節)しかしこれらの主のかせと鎖、そして主に油注がれた者は、イスラエルを通して表された人類への愛の表現なのです。

お祈りください

・世界が、父の愛を見ることができま
すように。(ヨハネ3章16節)

・教会が、神の目的にあるイスラエルの
立ち位置を認め宣言することがで
きますように。(ローマ書11章2節)

・私たちがユダヤ人に対して日々慰
めの器となることができますように。(イ
ザヤ書40章1節)

祈り



アブラハム・ミロゴ
Abraham Millogo
ブルキナ・ファソコーディネーター



EBENEZER
OPERATION EXODUS

SOCIAL MEDIA

FACEBOOKかINSTAGRAMを
使っていますか?



イスラエルとアリヤーについて新しい人達に伝えるための支援をお願いします。



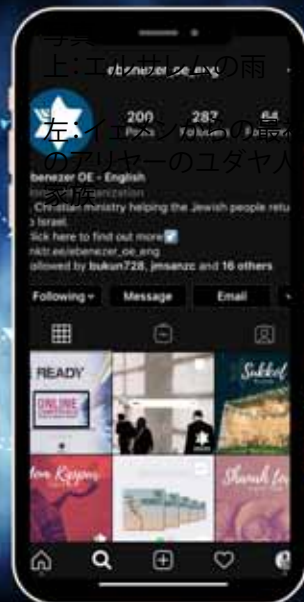
On Facebook search
Ebenezer OE International

On Instagram search
Ebenezer OE International

On

You-
Tube

search



孤独な兵士のための食料支援

イスラエル



ジェレミー・スミス
Jeremy Smith

イスラエルコーディネーター

緊急の支援要請が私たちのメキシコ支部に来ました。サムエルというベネズエラ出身の孤独な兵士が、他の二人の兵士たちとともにエルサレムで隔離されたというのです。というのも、彼らのうちの一人がコロナに感染したからです。しかし、彼らは2週間の間、隔離されるのですが、持っていたのは一日分の食事だけでした。隔離なので、外に食料品を買いに行くこともできない状態でした。

彼らはどこに助けを求めたらよいかのわからなかったため、メキシコ在住のエベネゼル総務部長のノルマ・ラムサルに連絡を取りました。それで彼女から、エルサレムにいる私たちに連絡が来て、状況を説明してくれたのです。その後、私たちは彼らに連絡を取り、彼らのアパートが私たちの事務所から車で10分のところにあることがわかったのです。



写真
エベネゼルチームに会って喜ぶ兵士たち

エベネゼルでは、通常、世界中のクリスチャンの支援者からの親切な献金によって購入した食料カードを提供することにしています。それで今回も、私は食料カードのいくつかを持って近隣のスーパーに行き、基本的な食料品やお菓子などをカート一杯買いました。その後、スーパーがそれを兵士たちに配達したのです。

若い兵士たちはみな、食料品を受け取った時とても喜んでいました。私は彼らに、また何か必要があったら連絡してくれれば、エベネゼルは喜んで支援するというのを伝えました。このような緊急事態の中で、クリスチャンとして愛を示す機会が与えられるということは、なんとという祝福、特権でしょう！

エベネゼルはまた、世界中からの移民を受け入れているユダヤ機関などのいろいろな団体に、食料品などの支援物資を提供し続けていく予定です。彼らの多くは、コロナの影響で職を見つけることができず、食料やその他の支援を非常に必要としているからです。

最近、シャベイ・イスラエルの代表であるマイケル・フロイドから連絡を受けました。この団体は、エベネゼルインドの支援を受けて、2021年に540人のブネイ・メナシェ族の帰還の支援をすることになっています。最初にイスラエルに到着するのは、5月の過ぎ越しの祭りの後で、270人のブネイ・メナシェです。エベネゼルは、彼らに食料カードを提供する予定です。



Operation Exodus

Ebenezer Operation Exodus
International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org



エベネゼル緊急基金日本支部

〒062-8691 豊平郵便局私書箱 37号
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)
office@ebenezerjapan.org
http://ebenezerjapan.org/
郵便振替 (名称) エベネゼル緊急基金
(番号) 02710-0-55842



Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org

Operation Exodus (出エジプト作戦) はエベネゼル緊急基金の実際的な働きの名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく1991年に3人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。